

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

テーマ：ふるさと八瀬を愛し、生き生きと学ぶ子どもの育成

1 ESDでめざすもの

(1) ESDのねらい

- ① 地域の方々とふれあいながらふるさとのよさを実感するとともに、働くことの喜びを感じる心情と態度の育成を図る。
- ② 郷土の芸術文化を愛し、その保護・継承・発展に努める心情と態度の育成を図る。

(2) ESDで育てたい力（資質・能力及び態度）

- ① 地域素材を中心とした体験活動を通して、人、自然や社会に興味をもち、その中から課題を見付け、よりよく問題を解決しようとする。
- ② 学習を通して学んだことを、自分の言葉で自覚的に表現しようとする。

2 ESDのプログラム

(1) 取組の概要

豊かな自然に育まれたふるさと八瀬のよさを、地域の方々とふれあう体験学習を通して知ることにより、地域の自然や伝統に興味をもつとともに、その中から課題を見付け、主体的に解決を図り、自分の生き方と結び付けながら自らの言葉で情報を発信していこうとする活動である。

(2) ESDプログラム（実施）

学年	目 標	主な学習活動内容
1 ・ 2 年	◇具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせる。	『サツマイモを作ろう』 『八瀬川であそぼう』
3 ・ 4 年	◇地域の自然や伝統に興味をもち、自分なりの考えをもって、体験的な活動に取り組み、自分ができることを考えようとする。	『レッツ・ゴー！八瀬川探検！』 『発見！そばパワーのひみつ』 『蚕のひみつを探ろう』 『花炭体験』 『八瀬のよさを伝えよう！』
5 ・ 6 年	◇自分たちが住む八瀬地域の人や自然、社会に進んでかかわりをもち、体験的な活動などを見直しながら大切にしていこうとする。	『比べて感じよう 八瀬の山・森・川』 『学ぼう！炭焼きができる八瀬のよさを』 『学ぼう！大豆パワーの秘密を』 『地域の防災について考えよう』 『守ろう伝えよう みんなのふるさと八瀬』 『月立子ども神楽』
全 学 年	◇児童の日々の学校生活を充実させることにより、「自ら考え正しく判断し、行動する力を育てる」を理念とした豊かな人間性をもった児童を育てる。	『鮎の稚魚放流活動』 『ぶどう狩り体験』 『敬老帳作成』 『早稲谷鹿踊』

< 活動写真 >



1・2年生 焼き芋販売



3・4年生 そば打ち体験



5・6年生 豆腐づくり



全校児童 ぶどう狩り体験

(3) 活動の評価の観点と方法

① 評価の観点

- ・ 学校は、特色ある教育活動を行っているか。
- ・ 学校は、保護者・地域の願いに応えているか。

② 評価方法

- ・ 保護者や地域の方々を招待し、生活・総合発表会を開催する。
- ・ 保護者や地域の方々からの感想やアンケートにより評価を受ける。

3 平成25年度のESDの実践

(1) 東日本大震災後の取組の変更や改善点

本校が位置する地域は、市内でも山間部にあるため、幸いにも東日本大震災の影響を最小限の被害で乗り越えることができた。そのため、教育活動はほとんど全て例年通りに実践することができている。

ただ、7月の大雨では、八瀬川が氾濫して川縁が崩れたり、山の田畑が土砂崩れを起こしたりした。このことから、月立小学区においても、自然災害に対する防災学習を行っていく必要性を感じ、「『水害』に対する地域の現状や課題を知り、水害発生時の行動や必要な備えについて考える」という単元の目標を設定し、以下の実践に取り組んだ。

(2) 実践の成果

① 地域に根ざした防災学習の実施

これまで本校では、学級活動で防災学習の時間が設定されていたが、全学年に設定されている訳ではなく、内容も一般的な「地震」への対応にとどまっていた。そこで、今回新たに防災学習シートを組み合わせ、地域で起こり得る「水害」を中心とした単元を設定して防災学習を行った。

まず、地域の状況を把握するために、八瀬川周辺のタウンウォッチングを行った。それを踏まえて学区地図に危険箇所を記入し、フリー参観において、保護者も交えて水害への行動や避難の仕方について話し合った。その後、各家庭で家族防災会議を実施し、シェアリングを行った。

② ESDで重視する能力・態度の向上

タウンウォッチングや図上訓練、家族防災会議等の活動を通して、自主的に意識することは少ない「防災」の視点から地域や家庭に目を向けて学習を行った。これによって、安全だと思っていた場所でも危険が潜んでいるかもしれないと考える「批判的に考える力」、災害が発生した時のためにどんな備えが必要かを考える「未来像を予測して計画を立てる力」、日頃から防災について考えていこうという「自ら進んで参加する態度」といった能力・態度の向上につながった。

③ 児童・保護者への防災意識の啓発

東日本大震災の被害が少なかったことから、学習前は「危険な所はありません」と話す児童もいたが、学習後には防災意識の向上が感じられた。また、フリー参観での防災学習や家族防災会議の実施により、児童と保護者が防災について共に考える機会となり、保護者からも前向きな感想が寄せられた。

[児童の感想から]	・身の回りにも危険がいっぱいあることが分かった。 ・自然は私達を守ってくれるけど、災害引き起こすこともあるので怖いと思った。 ・これからも防災について考えて生活したい。
[保護者の感想から]	・備えなければならぬ物、危険が多いことに気付いた。 ・山に囲まれたこの地域は、いざという時に逃げる場所がないと思った。 ・年に1回でも家族防災会議を開こうと思う。

(3) 次年度に向けた課題

① 他の地域や水害以外の災害を視野に入れた防災学習

今回は本校の学区における危険箇所、しかも「水害」に焦点を当てて学習を行ったため、災害の想定としては限定されてしまう。実際はどこで、どのように被災するか分からないため、自分が他の地域にいる時や地震・津波等の水害以外の災害を想定した防災学習を行う必要があると考える。可能であれば他地域との交流を行い、視野を広げたい。

② 指導内容の精選

第3・4時の学習では、複数の防災学習シートを組み合わせることで1時間の授業を行ったが、活動の時間が足りなくなり、後半の活動を省略しなければならないことがあった。児童の十分な活動時間を保障するために、単元及び1時間の授業内の指導内容や使用する防災学習シートを精選していく必要がある。また、重要事項の指導漏れがないように、系統的な指導計画を立てなければならない。

③ 教材や資料の蓄積・改善

防災学習の授業を行うにあたり、ワークシートや学区の地図、避難所の資料等といった準備に時間がかかった。今後は作成した教材や資料は次年度以降も使用できるように蓄積し、準備にかかる時間を短縮していけるとよい。ワークシートについては実践の反省を生かし、より使いやすく改善していきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施 その他
()